

# 今昔西尾街道 ～西尾街道の道筋調査～

---

安城南中学校2年 田中 翔

# 今昔西尾街道

安城南中学校 2年

## ～西尾街道の道筋調査～

田中 翔

### 1. 動機

以前、大浜街道を調査したときに西尾街道という街道が存在することを知った。西尾街道の道筋を知り、当時の旅人の思いを知りたいと思った。

### 2. 目的

- ① 西尾街道の道筋を知る。
- ② 実際に歩いてみて、当時の旅人の思いに触れる。

### 3. 予想

① 分かっていること  
西尾街道は東海道地鯉鮒宿を起点として、上重原・新林・谷田、安城の井杭山・箕輪・福釜・赤松・和泉・城ヶ入・南中根を経て矢作川を渡り、西尾城下へ至る街道。  
幡豆地方や吉良地方などの人々が京都方面に向かうときに通行した道でもある。

② 分かっていることから考えたこと  
上記の場所には今では県道や国道が通っていると思う。旧街道沿いには、道標や地蔵があるのではないかと考えた。また、他の道と違う特徴があるのではないかと考えた。

### 4. 調査

① 調査方法  
実際に歩いてみて道筋を調査する。また、現在失われてしまっている区間などは、1888年～1898年の地図を参考にする。

② 調査の原則  
・ 道筋が現存している区間はすべて歩く。  
・ 道筋が消滅している区間の周辺に道標や地蔵などの手がかりがないかも調査する。







△高津神社



△猿渡川近くの旧街道



△道標  
「ここから275m、とかが中100」



△衣浦豊田大橋



△猿渡橋



△通照院への道筋



△通照院



△地蔵



△通照院の地蔵



△東海道近くの地蔵



△弘明町の地蔵

△弘明町の地蔵  
遊歩道の  
おきにあたり  
道標  
「記号がはし  
とが中100  
記号が中100  
古街道=西尾街道



△中町の交差点で東海道合流する

## 6. 考察

予想していたとおり、旧街道沿いに地蔵や道標があった。また、ほとんどの区間が渠道などの幹線道路と化していた。これは大きな道路をつくるにかけた旧街道の道筋を利用することで工事を郊率的に進めることができるからではないかと考えた。

そして、予想していなかったが、集落の中では街道がおりまかっていたり、道幅がせまくなっていたりしていた。これは東海道や中山道などの有名な街道でもみられる鍵の手や曲尺手というつくりではないかと考えた。

さらに区画整理が行われた地域でも旧街道の

